令和６年度社会福祉法人友和の里事業報告書

Ⅰ　法　人　経　営

１．理事会・評議員会等

役員等の会議について、理事会は５回、評議員会は４回、運営協議会は２回開催しました。主な議案は、理事会では、事業計画、予算及び事業・決算報告並びに諸規程の変更、評議員会においては、基本財産の取得、定款一部変更について審議し、承認されました。運営協議会においては、事業計画、予算及び事業・決算報告並びに施設の現状、課題を説明し、意見交換を行いました。また、ガバナンスの強化として、監事による法人内部監査を年２回実施し、役員等に支給される報酬については、定款第２２条の規定に基づき適正に支給しました。

２．財務状況

障害福祉サービス等事業収益の増額要因は、令和６年度障害福祉サービス等報酬改定により、強度行動障害を有する障害者への支援体制を評価する加算の拡充及び共同生活援助における人員配置体制加算が創設され、当該加算の算定並びに就労継続支援Ｂ型の利用者４名と新規に契約できたことにより収益は増額となりました。

[過去５年間の手許資金残高及び事業収益の推移]　　(単位：円)

年度	手許資金残高（支払資金残高＋建設積立資産）	前年度比	備　考
令和６年度	417,138,932	48,544,510	建設積立資産額70,000千円
令和５年度	368,594,422	34,557,021	建設積立資産額70,000千円
令和４年度	334,037,401	30,792,095	建設積立資産額55,000千円
令和３年度	303,245,306	24,811,520	建設積立資産額40,000千円
令和２年度	278,433,786	－41,684,416	ＦＨ整備 建設積立資産額4,500千円
年度	**障害福祉サービス等事業収益**	**前年度比**	**備　考**
令和６年度	517,611,962	44,169,708	R6年度障害福祉サービス等報酬改定
令和５年度	473,442,254	7,394,567	
令和４年度	466,047,687	27,519,407	ＦＨ定員満床利用
令和３年度	438,528,280	27,886,725	ＦＨ事業開始
令和２年度	410,641,555	22,950,178	重度加算　通所配置加算

３．設備資金借入金償還

ＧＨ整備の資金として、平成30年４月に独立行政法人福祉医療機構から借り入れた30,000千円及びＦＨ整備の資金として、令和３年３月４日に同機構から借り入れた40,000千円について、償還計画通り償還しました。

・償還期間：20年　・利率：年0.28％　10年後見直し　・最終償還期限：2038年3月10日（ＧＨ）
・償還期間：20年　・利率：年0.34％　10年後見直し　・最終償還期限：2041年2月10日（ＦＨ）
・供出担保：ＧＨ、ＦＨ建物及び敷地
・令和６年度償還額：元金　3,720,000円　利息　180,875円
・令和６年度末借入金残高：54,800,000円（ＧＨ19,656千円・ＦＨ35,144千円）

４．社会福祉充実残額

社会福祉充実残額の算定を行い、当該残額があれば、社会福祉充実計画を策定し、計画的かつ有効に再投下していくことが求められますが、本年度も社会福祉充実残額は生じておりません。

Ⅱ　組織及び職員

１．職員採用・退職

○令和６年度採用者数

生活支援員（常勤）　２名
作業支援員（非常勤）　１名
給食調理員（非常勤）　１名
世　話　人（非常勤）　１名

○令和６年度退職者数

相談支援専門員（常勤）１名
生活介助員（非常勤）　２名
給食調理員（非常勤）　１名
世話人（非常勤）　３名
運転手（非常勤）　１名

[部署別職員数]　（単位：人）

部　門	令和６年４月１日現在			令和７年３月３１日現在		
	常勤	非常勤（常勤換算）	合計（常勤換算）	常勤	非常勤（常勤換算）	合計（常勤換算）
管理・事務	３	―	３（３．０）	３	―	３（３．０）
入所部	１５	１５（９．２）	３０（２４．２）	１７	１４（８．８）	３１（２５．８）
通所部	１１	１３（９．８）	２４（２０．８）	１１	１２（９．１）	２３（２０．１）
共同生活援助事業所	１０	１２（４．２）	２２（１４．２）	１０	１０（３．９）	２０（１３．９）
相談支援事業所	２	―	２（２．０）	１	―	１（１．０）
給食提供	４	６（４．５）	１０（８．５）	４	６（４．５）	１０（８．５）
合　計	４５	４６（２７．７）	９１（７２．７）	４６	４２（２６．３）	８８（７２．３）

２．職員処遇

職員処遇については、福祉・介護職員等処遇改善加算を継続して取得し、当該加算対象全職員の基本給、手当による賃金改善を実施しています。

労働時間・休日については、各部署の管理者が日毎の出勤簿で労働時間を確認、有給休暇の５日以上の計画付与を実施し、過重労働にならないよう適切に管理しております。健康診断では、希望者に、法定健診項目に加え、生活習慣病検査、胃カメラ、乳がん、子宮がん健診等を実施しております。また、メンタルチェックにおいては、産業医の指導によりストレスチェックを行っております。

３．人材育成

職員の職務、キャリアに応じた研修の受講及び高齢化等で生活機能が低下した利用者に対する適切な介護技術と、自閉症等の障害特性を踏まえた支援技術を習得するため、定期的に専門家によるコンサルテーションを受け、事例検討、研修等を実施しました。

資格取得については、本年度も法人の資格取得助成制度を利用して、職員１名が介護支援専門員の資格を取得しました。

４．虐待防止に関する取組み

全職員を対象とし、虐待防止・権利擁護に関する施設内研修を年２回実施しました。また、虐待防止に関する外部研修を受講するとともに、虐待防止マニュアルを全ての職員が多くの日常的な場面で活用できるよう見直し、随時更新しました。

虐待防止マネージャー、サブマネージャー会議を月１回開催し、障害者虐待の未然の防止及び虐待が発生した際の早期発見、事業所内の適正な支援等について検討・改善を行いました。

Ⅲ　施設運営

１．利用定員

各事業所定員は次のとおりです。

（１）入　　所　　部	施設入所支援	３２名	
	生活介護	４０名	
	短期入所	４名	
（２）通　　所　　部	生活介護	４０名	
	就労継続支援Ｂ型	１０名	
（３）グループホームゆうわ	共同生活援助	７名	
	短期入所	２名	
（４）フレンドホームゆうわ	共同生活援助	１０名	（日中サービス支援型）
	短期入所	１名	

２．事業所運営

（１）入所部（障害者支援施設）

①施設入所支援・生活介護

住まいの場としての質の向上：環境整備を通じて余暇の充実や快適性を向上させました。具体的には、テレビ鑑賞がしやすい環境づくりを行い、外出やレクリエーションの機会を多く日中活動に取り入れました。

健康支援・障害特性専門家コンサルテーション：関係機関との連携については課題が残りました。今後は引き続き具体的に連携計画を策定する予定です。また、全入所者を対象に障害特性について専門家のコンサルテーションを実施しました。

感染対策：施設内換気、手指消毒、検温および室内消毒以上の基本的対策を継続しつつ、感染者発生に備えた研修も実施しました。

日帰り旅行は３ヶ所のプランから個々に選択し楽しんで頂きました。レクリエーションはホップ・ステップ・ジャンプグループに分かれ職員が企画しました。友和ミュージアムでは日々の活動紹介や作品展示を行い利用者、保護者、職員と親睦を深めました。新たにアート活動にも取り組み、利用者個々の作品を作成することが出来、ウッドワン美術館「わたしのアート」展で展示することが出来ました。

②短期入所

家族の疾病等により一時的に居宅で介助できない場合に、短期間、夜間も含めて施設に入所し、食事、入浴排泄などの日常生活上の支援をしました。

③個別支援計画

サービス提供の基本となる個別支援計画について、利用者(家族)の要望を踏まえ、アセスメント(課題分析)やモニタリング(継続的な観察)などをご利用者、生活支援員、栄養士、看護師、サービス管理者や、個々の状況に合わせて関係者の参加が必要と思われる方には関係者に同席してもらい会議を行いサービス管理者が作成しました。また、保護者等に電話や面談にて個別支援計画書の説明をしました。

［年間サービス利用状況］

年　度	生活介護（定員 40 名）		施設入所支援（定員 32 名）		短期入所 定員４名(空床利用可)	
	契約数（年度末）	延べ利用者数	契約数（年度末）	延べ利用者数	契約数（年度末）	延べ利用者数
６年度	67	10,710	32	11,141	64	963
５年度	67	10,512	31	11,072	64	909
前年比	0	198	1	69	0	54

（２）通所部

①生活介護

利用者一人ひとりのニーズ・障害特性を踏まえた個別支援計画を策定し、日常生活の自立や生活の質が向上する支援を実施しました。作業班を４班、クラブ活動は３班を編成し、利用者の障害特性や希望に応じた活動の場を整え、利用者一人ひとりに寄

り添ったサービス提供をしました。また体力向上のために運動の日では、遊歩道を活用し健康づくりを実施しました。

健康管理では看護師による日々の健康観察、服薬支援の継続、年二回の健康診断を実施し、体調管理の徹底に努めました。日々の生活の中では、来所時の検温、室内の喚起、こまめな手洗い、アルコール消毒を実施し感染症対策を実施しました。

②就労継続支援Ｂ型

生産活動やその他の活動の機会を提供し、作業能力の向上を目指しました。利用者一人ひとりの状態や体調に応じて支援し、継続的に働くことができる環境を整えることで、社会参加と生活の質の向上を図りました。佐伯国際アーチェリーランドでのアーチェリー活動を通じて心身のリフレッシュを図りました。休日に開催されたアーチェリー大会に自主的に参加される利用者に対しては保護者と連携を図り、当日のサポート体制を整えることで、安心して大会に臨める環境を提供しました。

新規利用者獲得に向けて関係各所に訪問や情報提供を行ったことで、新規利用者が４名増えました。

［年間サービス利用状況］

年　度	生活介護（定員 40 名）		就労継続支援Ｂ型（定員 10 名）	
	契約者数（年度末）	延べ利用者数	契約者数（年度末）	延べ利用者数
６年度	56	8,646	5	797
５年度	56	8,639	1	229
前年比	0	7	4	568

［令和６年度作業班内容］

作　業	活動内容	職員	利用者	作業収益
貝通し班	貝通し作業、貝納品	5	11	1,602,755 円
陶 芸 班	陶芸作品作成、販売	2	7	244,100 円
療 育 班	ゴム入れ作業、自立課題、ウォーキング	7	21	4,026 円
創 作 班	ゴム入れ作業、農園、ウエス作業	2	5	145,880 円
合　　計		16	44	1,996,761 円

（３）グループホームゆうわ（共同生活援助・短期入所）

利用者の日々の個人記録について、時系列に沿って詳細に記録する方式に変更しました。これにより、職員が利用者の生活の様子や健康状態を継続的に把握することが可能となり、小さな変化にも気づきやすくなりました。意思の表出が困難な利用者のニーズを察知し、それに応じた支援を具体的に行うことができました。また利用者のＧＨの様子や支援内容に

ついては、個別支援計画で利用者・保護者・職員で確認をした上で、必要に応じて保護者に随時連絡する事で、安心してサービスを利用していただけるように努めました。

地域交流では、岩組町内会の一員として、夏祭りやとんど、地域一斉清掃に参加しました。毎年利用者の皆さんが楽しみにされている元旦の獅子舞訪問や秋祭りの神輿訪問など、地域での行事と積極的に関わることで地域との連携を深めることができました。

ＧＨでの活動では、恋サブレによる焼き菓子の訪問販売・ゴールデンウィークにＢＢＱの実施・保護者との親睦会・冬まつり・年度末の食事会を行いました。

感染症対策としては、定時の換気や検温を行い、体調不良が見られた場合には、速やかに医療機関を受診し、できる限り普段と変わらない環境である自室での静養をしていただく支援を行いました。

令和６年度には、新たに１名の入居者に後見人が選任され、金銭管理及び身上監護を担っていただける体制となりました。

短期入所では、利用後に短期入所中の利用者の様子を保護者にお伝えすることで、信頼関係の構築ができ、定期的に利用いただき、利用日数の増加につながりました。

［年間サービス利用状況］

年　度	共同生活援助（定員７名）		短期入所（定員２名）	
	契約者数（年度末）	延べ利用者数	契約者数（年度末）	延べ利用者数
６年度	7	2,490	17	237
５年度	7	2,486	17	190
前年比	0	4	0	47

（４）フレンドホームゆうわ（共同生活援助・短期入所）

利用者の加齢に伴い、身体的・精神的な健康課題が増加した為、医療機関への受診回数が増加しました。日々の健康管理に留意し、万が一、医療的ニーズが発生した場合に適切な医療との連携が取れるように、看護師を中心に通院支援の体制整備や、保護者・医療機関との連携強化に努めました。令和６年１２月に１名の利用者が退去され、令和７年３月に新たな利用者が入居されました。

食事面では、利用者の健康状態に応じて、世話人および職員が連携し、刻み食やとろみ茶の提供を行いました。また食欲が低下している利用者には医療機関および保護者と連携を図りながら献立メニューに加えて嗜好品の提供などを行い、日常生活を過ごす体力の維持・向上に努めました。チームケアの質を高めるため、看護師は感染症予防対策研修を、その他多くの職員は、福祉施設職員相互研修を通じて他事業所の取り組みや対応方法を学び、支援の質の向上に活かしました。

個別支援計画では、利用者・保護者・職員で確認をした上で、必要に応じて保護者に随時連絡する事で、安心してサービスを利用していただけるように努めました。

ＦＨでの活動では、恋サブレによる焼き菓子の訪問販売・ゴールデンウィークにＢＢＱの実施・保護者との親睦会の開催・冬まつり・年度末の食事会を行いました。

短期入所では、令和６年８月から令和７年２月にかけて１名の利用者が長期間利用されていた為、利用日数の増加となりました。

［年間サービス利用状況］

年　度	共同生活援助(定員 10 名)		短期入所(定員 1 名)	
	契約者数 (年度末)	延べ利用者数	契約者数 (年度末)	延べ利用者数
6 年度	10	3,385	4	175
5 年度	10	3,465	4	4
前年比	0	−80	0	171

（５）特定相談支援事業所

利用者一人ひとりの意向を尊重したサービス等利用計画・障害児支援利用計画の作成を行うとともに、定期的なモニタリングを通じて、利用者及びその家族を取り巻く環境やニーズの変化、ライフステージの移行に応じた柔軟な計画の見直しを実施し、利用者の個性や状況に適した生活の実現を目指した支援を実践してきました。

また、関係機関との連携強化を図るとともに、地域における支援体制の構築を目的とし、各種部会への積極的な参加を通じて、関係者間の情報交換や課題の共有に努めました。

＜所属部会＞

・広島県知的障害者福祉協会相談支援部会

・はつかいち福祉ねっと

（地域生活支援システム部会・相談支援部会・医療的ケア児(者)部会
発達支援部会・特別支援学校進路ワーキング）

・大竹市自立支援協議会

（事業所部会・発達障害部会・コイちゃん福祉ネット部会・地域生活部会）

［契約者数］

１２９名（成人８８、児童４１）

※新規契約者８名（成人３、児童５）、契約終了者７名（成人４、児童３）

［計画相談支援・障害児相談支援提供件数］

年度	サービス利用支援		継続サービス利用支援	
	年間提供数	備考	年間提供数	備考
6 年度	101	うち児童 48	272	うち児童 68
5 年度	102	うち児童 43	297	うち児童 81
前年比	−1	5	−25	−13

３．食事提供

食事メニューは、栄養士が栄養バランスと利用者の身体状況に配慮しながら、季節食や行事食など、多彩な食事提供に努めました。季節食・行事食については、食事の内容だけでなく、献立カードや箸袋などを作成し雰囲気作りも行いました。利用者の余暇にも参加させていただき、一緒にデザートなども作りました。

摂取カロリーの目安は、一般成人の 1,800kcal～2,200kcal としています。さらに過栄養・低栄養の利用者には、個別で対応しています（1,200kcal～2,300kcal)。

利用者の健康状況に合わせその都度ケア会議等を開き、咀嚼機能や嚥下機能が低下した場合には「刻み食」や「とろみ食」へ変更して対応しました。また、食物アレルギーのある利用者には、「除去食」「代替食」を提供するなどの個別対応をしました。

一人ひとりの栄養改善や食生活の質の向上を推進させるために、主障害だけでなく、有している障害・疾病を配慮し、多職種と情報共有をして、入所利用者に対して栄養ケア・マネジメントを実施し、食事内容の変更等も行っていきます。

〇年間総調理数 57,533 食

「刻み食」「とろみ食」「除去・代替食」対応者数（令和 7 年 3 月末現在）

区分	入所部	通所部	グループホームゆうわ フレンドホームゆうわ	計
刻み食	14	10	10	34
とろみ食	3	0	2	5
除去食 代替食	11	2	1	14
計	28	12	13	

「食物アレルギー」対応者数（令和 7 年 3 月末現在）

区分	乳製品	卵（生卵）	エビ	カニ	そば	落花生
対象者 （実数 9 名）	5	2	2	2	2	1
	小麦	鯖	バナナ	タケノコ	その他	
	0	1	1	1	6	

４．健康管理

利用者の健康管理や早期発見・治療に繋げる年２回の定期健康診断をしました。（通所部・共同生活援助の利用者は希望者のみ)また、感染対策として衛生委員会や各部署で防護服着脱研修、感染対策研修を実施しました。

５．安全対策

利用者が安全で安心してサービスを利用できるよう、事故防止・リスク管理を行うとともに、職員の安全意識の高揚に努めました。

・火災避難訓練の実施（年２回）

・夜間を想定した火災避難訓練の実施（年１回）　入所部
・大雨洪水警報発令時の人員体制の強化（夜間３人体制）入所部
・土砂災害時を想定した避難訓練の実施（年１回）
・安全運転講習会受講及び交通安全週間における啓発活動
・業務継続計画の策定

６．行事等

年間を通して、季節の移り変わりが実感できるよう、実施しました。また、行事等の場を活用して、利用者家族や地域（住民）との交流や意見交換を積極的に行ないました。年間行事実施状況（資料３参照）

７．広報広聴

「友和たより」や「友和の里まつりのちらし」などで利用者の参加を検討しました。利用者に書いてもらった文字やイラストなどを、保護者に許可を得たうえで積極的にデータとして活用し、広報物に活用することで、友和の里の利用者の紹介や友和の里らしさをより視覚的に表現しやすくなりました。近年、著作権や個人情報保護の観点から外部からのデータの活用は制限が強まっていることから、インターネットなどから借用したデータの活用は避けるようにし、安心・安全な広報制作活動を実施しました。

８．地域交流及び貢献等への取組み

地域交流及び地域福祉、地域活動の推進と支援、文化・芸術活動等を中心として、次のとおり取組みました。

（１）地域交流

ハーモニーフェスタや友和市民センター祭りなどの地域のイベントで作品展示や出店をしました。毎月発行の広報誌に地域の情報を掲載することで地域について知ることが出来、同時に広く友和の里について知ってもらいながら発信することができました。１月のとんどでは地域の事業所の来訪があるなど少しずつ遊歩道を中心に地域とのつながりが広がってきています。

直接的な交流には課題が残ります。とんどや夏祭りなど地域のイベントにはグループホームが中心に参加していますが、顔のわかるお付き合いまでにはなりにくい現状があります。現在、遊歩道などの環境整備や生産活動など多方面から魅力ある友和の里づくりを進めています。地域から「行ってみたい」と思える事業所をめざしていますが、広報誌や作品展示など間接的な交流中心に展開している現状を今年度は確認することが出来ました。

（２）地域福祉、地域活動の推進と支援

コミュニティーハウスを月１回開催されるリフレッシュカフェ（認知症カフェ）の場として貸出すとともに利用者の送迎を担当し、地域福祉・地域活動の推進と支援を行いました。また、職員６名が佐伯消防団に所属し、消火活動及び防災訓練等に参加し地域防災に貢献しました。

（３）文化・芸術活動等

入所部でアート活動を全利用者を対象に定期的に行いました。活動で描かれた作品を、事務所前や法人行事（友和の里まつり、入所ミュージアム）地域イベントなどで展示し、さらに広報誌に掲載しました。活動で生まれた表現や作品から利用者一人ひとりの特性や個性を見つけることができ、さらに絵の展示を通じて友和の里の利用者の紹介ができるようになりました。ウッドワン美術館「わたしのアート」展では、作者３名が展示会場へ出かけ、自分の描いた作品が展示されるという経験をすることが出来ました。公募展への応募はできませんでしたが、活動をすることで画材の工夫、展示の方法、共同作品の制作についてなど検討課題がみえてきた１年になりました。

Ⅳ　環境整備

１．施設整備等

（１）土地

・第3グループホーム開設用土地取得（廿日市市友田字氏森273番2）　９，５００，０００円

（２）器具及び備品

・バリアフリースケール（車いす用）　１９４，１５０円
・ＦＨ棟玄関電子錠　２４２，０００円
・入所棟各所テレビ（６台）　３９０，０００円
・厨房用倉庫　４０５，９００円
・厨房エアコン　４６２，０００円

（３）機械及び装置

・陶芸用撹拌機　３４９，０００円
・厨房スチームコンベクションオーブン　２，１５７，９８０円

２．修　　繕

（１）入所棟

・２階女性棟廊下壁張替　６７７，８２０円
・２階男性トイレ改修　２，５９７，１００円
・多目的室改修　４，７１９，０００円

（２）通所棟

・女性更衣室改修　５３６，８００円
・屋外手洗い場改修　１，５６９，１５０円
・多目的室扉取替　１，６３２，４００円